

1 事業概要

事業名	三田尻中関港 中関地区 港湾改修事業
事業場所	防府市中関
事業主体	山口県
事業期間	昭和 56 年度 ~ 平成 26 年度 (西暦 1981 年度 ~ 西暦 2014 年度)
総事業費	18,802 百万円
事業目的	三田尻中関港中関地区は、塩田跡地に自動車関連工場等が進出し、臨海工場地域が形成されている。しかしながら、三田尻中関港には大型貨物船による完成自動車やコンテナ貨物を取り扱うための港湾施設が無く、施設整備が求められている。このことから、完成自動車やコンテナ貨物の取り扱いに対応し、陸上輸送コストの削減や物流の効率化を図るため、三田尻中関港中関地区において港湾施設の整備を実施する。
事業内容	岸壁(-12.0m) 480m、泊地(-12.0m)3,178千㎡、航路(-12.0m)1,228千㎡、岸壁(-7.5m)390m、泊地(-7.5m)661千㎡、道路4,140m、碼頭用地10.4ha、荷役機械1基

2 事後評価の視点

(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

【費用対効果分析】

区 分	事業採択時・計画変更時・再評価時
評価基準年	平成22年度
事業費	19,416 百万円
工期	S56年度 ~ H25年度
費用対便益比	B/C=1.3

【要因変化の分析】

- ・事業費は若干減少
 - ・工期の大幅な変更はなし
 - ・取扱貨物量は前回評価時の将来推計と同程度
- 上記の結果、費用対便益比は前回評価時と比較し大きく変わらないものと考えられる。

(2) 事業の効果の発現状況

【事業の効果の発現状況】

港湾施設の整備により、三田尻中関港中関地区において、完成自動車やコンテナ貨物の取り扱いが行われるようになった。

【事業の効果の発現状況に対する評価】

三田尻中関港中関地区に立地する自動車関連工場等が、最寄りの港で貨物を取り扱うことにより、陸上輸送コストが削減され、効率的な物流が可能となった。

(3) 事業実施による環境の変化

【変化の状況】

① 自然環境への影響

施設整備にあたっては、周辺海域で行われている漁の支障とならないよう施工時期を調整し、汚濁防止膜を設置する等水質汚濁防止対策に努めたことから、施設整備に伴う自然環境に与える影響は軽微であると考えます。

② 生活・住環境等への影響

施設整備箇所は、背後に工場群を抱えた立地条件となっており、住宅地から十分に離れていることから、生活・住環境等への影響はないと考えます。

③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）

なし

(4) 社会経済情勢の変化

【変化の状況】

① 社会経済状況及び事業環境等の変化

近年はコンテナ貨物取扱量が増加傾向にあり、今後も増加することが想定される。

② 関連計画・関連事業の状況の変化

山口県が平成28年度～平成29年度に、荷役機械（2基目）の新規整備を行った。

(5) 今後の事後評価の必要性

なし

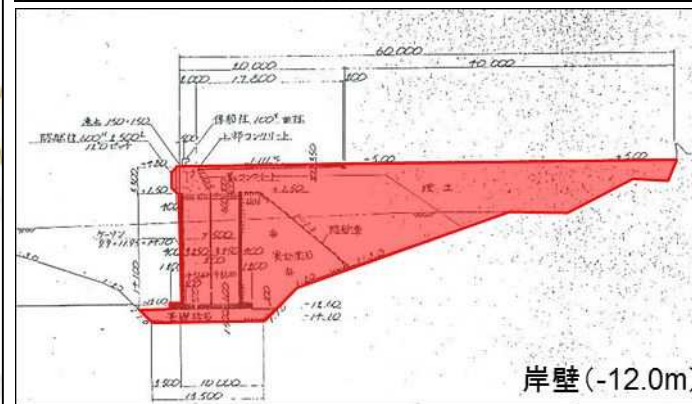
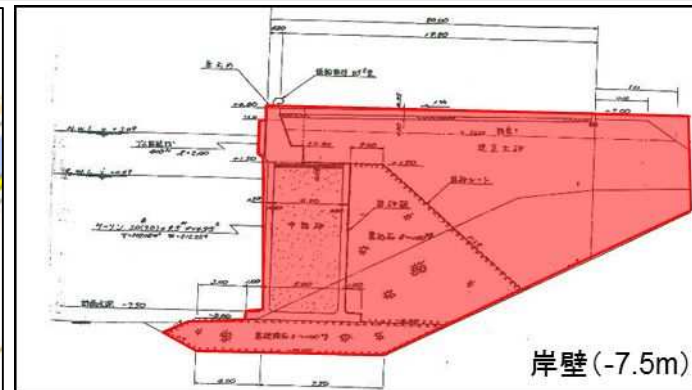
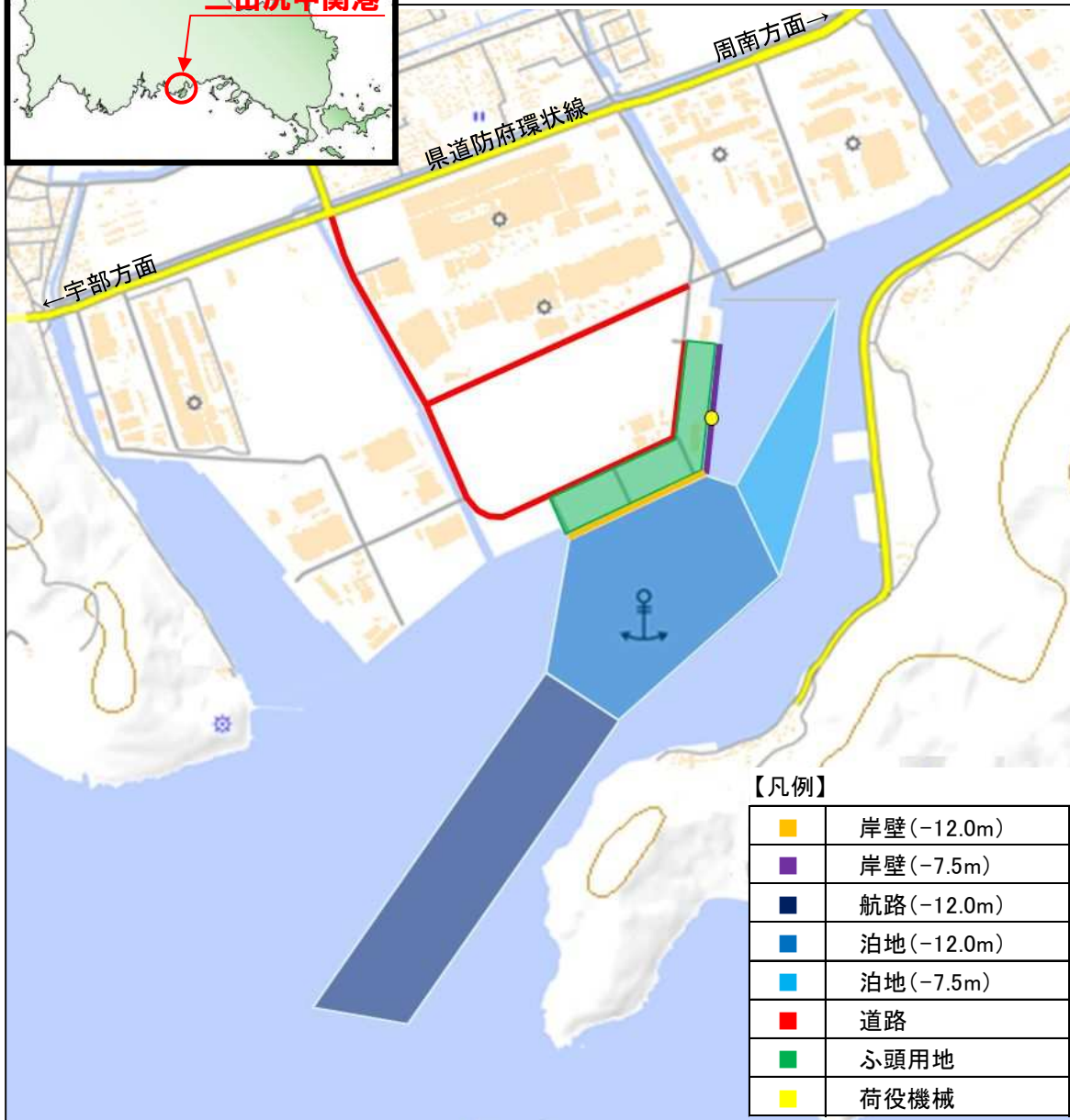
(6) 改善措置の必要性

なし

(7) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

なし

三田尻中関港(中関地区) 港湾改修事業



※この地図は、国土地理院地図(電子国土Web)の一部を掲載したものである。